

科目名	IEP1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	滋慶学園の英語教育に長期にわたって従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	L1 L2 挨拶が出来るようになる アセスメントテスト	オンラインプラクティス L1 L2
2		講義	L3 L4 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	オンラインプラクティス L3 L4
3		講義	L5 好き嫌いを表現出来るようになる	オンラインプラクティス L5
4		講義	L6 相手の好きなものについて質問が出来るようになる 相手に質問で返すことが出来るようになる	オンラインプラクティス L6
5		講義	L7 時間を尋ねることが出来るようになる 時間を伝えることが出来るようになる	オンラインプラクティス L7
6		講義	L8 相手の意見を聞くことが出来るようになる 自分の意見を言うことが出来るようになる	オンラインプラクティス L8
7		講義	L9 L10 相手の家族について質問出来るようになる 自身の家族について説明出来るようになる 相手の性格と比較して説明出来るようになる	オンラインプラクティス L9 L10
8		講義	L11 L12 相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に返答出来るようになる 相手の服装について尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L11 L12
9		講義	L13 相手の日課について質問が出来るようになる 自分の日課について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L13
10		講義	L14 継続して質問することが出来るようになる	オンラインプラクティス L14
11		講義	L15 あるものの順番について質問が出来るようになる あるものの順番について説明が出来るようになる	オンラインプラクティス L15
12		講義	L16 学校外での活動について質問出来るようになる 学校外での活動について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L16
13		講義	L17 ある場所について質問出来るようになる ある場所について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L17
14		定期試験	定期試験	
15		振り返り	振り返り	
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Speak Now 1				

科目名	IEP2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	エコ・イノベーション科 4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	滋慶学園の英語教育に長期にわたって従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	L18 相手に提案を求めることが出来るようになる 相手に提案をすることが出来るようになる	オンラインプラクティス L18
2		講義	L19 L20 ある場所の位置について質問出来るようになる ある場所の位置を説明出来るようになる 道案内が出来る、道順を尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L19 L20
3		講義	L21 あるものの値段について尋ねることが出来るようになる あるものの値段を教えることが出来るようになる	オンラインプラクティス L21
4		講義	L23 ある行動の頻度について尋ねることが出来るようになる ある行動の頻度を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L23
5		講義	L25 あるものの量について質問出来るようになる あるものの量について話すことが出来るようになる	オンラインプラクティス L25
6		講義	L26 相手の必要なものを尋ねることが出来るようになる 必要なものを説明出来るようになる	オンラインプラクティス L26
7		講義	L27 食生活について説明出来るようになる 健康的な食事について話すことが出来るようになる	オンラインプラクティス L27
8		講義	L28 ある食べ物について質問出来るようになる ある食べ物を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L28
9		講義	L29 過去の出来事について話すことが出来るようになる 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる1	オンラインプラクティス L29
10		講義	L30 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる2	オンラインプラクティス L30
11		講義	L31 ある出来事を説明出来るようになる 出来事を聞いて反応出来るようになる 過去の体験について話したり尋ねたりすることが出来るようになる	オンラインプラクティス L31
12		講義	L32 予定について質問出来るようになる 予定について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L32
13		講義	復習	
14		定期試験	定期試験 アセスメントテスト	
15		振り返り	振り返り	
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Speak Now 1				

科目名	アニマルベーシックⅠ1		必修 選択	選択	年次	1	担当教員	菅野 宏文
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制		授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	日本蛇族学術研究所・研究員、伊豆アンディランド 学芸員、現在は執筆活動							
授業の学習内容	体のしくみ	消化系・循環系・排出系・呼吸系・神経系・感覚器などの動物の器官の構造と機能。						
	ベーシック	細胞の構造と機能、消毒滅菌、ズーノーシス、PHと浸透圧、DNAとRNA、メンデルと遺伝。						
	ヒストリー	動物の分類（分類の概念・単位、種の定義、学名、分類大綱）、生物学の歴史と生命の誕生、生物の進化。						
到達目標	高校時に履修すべき知識はもちろんのこと、専門学生として1歩進んだ知識を身に付け、動物園、水族館、企業等の採用試験及び業務に対応できる学力を培う。							
評価方法と基準	出席率	70%以上	2点					
		80%以上	3点					
		90%以上	5点					
		上記の点数を筆記試験に加算する。						
筆記試験評価	GPA〔A 100～90、B 89～80、C 79～70、D 69～60、F 59～0（不合格）となる。〕 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。							

授業計画・内容					
日数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習（学習課題）
1		講義	消毒・滅菌	代表的な消毒方法と特性	本日の講義の復習。
2		講義	ズーノーシス	ズーノーシス 対策代表的な人獣共通感染症	〃
3		講義	pHと浸透圧	pHとは何か、浸透圧とその計算 pHの表し方、ファントホッフの公式	〃
4		講義	DNAとRNA	構造及び、機能トリプ レットコードの解読	〃
5		講義	メンデルと遺伝I	遺伝と変異と進化 メンデルの遺伝の法則	〃
6		講義	メンデルと遺伝II	遺伝子の相互作用 優性・独立の法則の例外	〃
7		講義	性と遺伝	性の決定と性染色体 性決定の型 伴性及び限性遺伝	〃
8		講義	動物の分類	分類の概念 分類の単位	〃
9		講義	種の定義と学名	形態学的及び生物学的種 種の隔離と雑種・亜種、二名式命名法	〃
10		講義	生物学の歴史と 生命の誕生	生物発生説及び生命の誕生 生命体の条件	〃
11		講義	生物の進化I	進化論諸説の解説 及び長所と短所	〃
12		講義	生物の進化II	近年の進化論について	〃
13		研修	海外研修		訪問する国の動物について調べる。
14		試験	期末試験（ペーパーテスト実施）		試験に対する準備を行う
15		講義	試験解答及び全過程の総括		理解しにくかった項目を予め調べる
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 高山清次監修「動物年表で知るアニマルヒストリー」 滋慶教育科学研究所監修「ECO業界で役立つ基礎生物」					

科目名	アニマルベーシックⅡ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	島田
学科・コース	エコ・イノベーション科昼ー4年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	獣医師						
授業の学習 内容	近年、社会における人々の意識の多様化に伴い、動物の飼育に対する意識も急速に変化している。そのような状況で動物を取り扱う業界に求められるニーズも日々変化しており、動物の専門家にも高度な知識や技術が要求される様になっている。本講義では、そのような高度な知識や技術の土台として、動物飼養や健康管理の基本や生物の基礎知識を習得することを目的とする。						
到達目標	動物飼養や健康管理の基本、生物の基礎知識である細胞や遺伝子、動物の体の基本構造や機能を理解すると共に、動物の専門家が現在どのような知識や技術を身につけなければならないかを知り、実感すること。						
評価方法と基準	筆記試験(期末テスト)100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月11日	講義	基礎生物(生物知識の基本である進化・食物連鎖・公衆衛生に関して理解・説明ができる)	教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
2	4月18日	講義	基礎生物(動物医療に関する検査・診断・治療の流れや使用器具に関して理解・説明ができる)	教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
3	4月25日	講義	基礎生物(飼育現場において必要である栄養に関する基礎、繁殖や遺伝に関して理解・説明ができる)	教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
4	5月9日	講義	基礎生物(様々な動物における家畜化のプロセスや家畜化の意義を理解・説明ができる)	教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
5	5月16日	講義	基礎生物(生物多様性の意味や環境保全の取り組みに関して理解し、具体的に説明できる)	教科書(基礎生物)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
6	5月30日	講義	アニマルヒストリー(愛玩動物、家畜動物、展示動物など様々な動物と人との関わり方を理解し説明できる)	教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
7	6月13日	講義	アニマルヒストリー(最近のペット事情の動向を知り、具体的なビジネスの概要を理解・説明ができる)	教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
8	6月20日	講義	アニマルヒストリー(AAAとAATの違いや、動物を介在する利点/不利点を理解し説明できる)	教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
9	6月27日	講義	アニマルヒストリー(社会における使役犬の役割や必要性を理解・説明ができる)	教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
10	7月4日	講義	アニマルヒストリー(畜産業の最近の動向並びに具体的な畜産動物に関して理解・説明できる)	教科書(アニマルヒストリー)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
11	7月11日	講義	動物の飼養管理(動物園・水族館の存在意義や愛玩動物との相違点を理解・説明できる)	教科書(動物の飼養管理)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
12	7月18日	講義	動物の飼養管理(ペットと産業動物の違いを理解・説明できる)	教科書(動物の飼養管理)の該当範囲を読む 教科書を読み返し授業ノートを補完する
13	9月5日	講義	前期の総復習(前期の授業の需要点を把握し、自分の言葉で説明できる)	授業ノートの内容確認 試験勉強
14	9月12日	講義	テスト	試験勉強 テストで分からなかった箇所の復習
15	9月19日	講義	振り返り(テストの間違った点の修正並びに理解ができる)	テストで分からなかった箇所の復習
準備学習 時間外学習			教科書を読む 授業ノートの補完	
【使用教科書・教材・参考書】				
ECO 専門基礎科目テキスト				

科目名	エコ教養 I 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 武田 尚幸
学科・コース	エコイノベーション科屋間部一4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1	
教員の略歴	文学部 日本文学科卒 ペットパラダイスDXみなとみらい店勤務後、TCA教務部					
授業の学習 内容	毎週ごとの授業の振り返りを実施することで、授業の習熟度/達成度の見極めを図ります。 滋慶学園の3つの理念の中でも「人間教育」の部分に重きを置き、コミュニケーションの大切さやクラス運営を組織的に行う事により集団での自立心を養いキャリア教育の推進を図ります。					
到達目標	将来業界に出るにあたり、キャリアプランを明確にし社会人としてのマナーや心構えを理解し実践することが出来る。					
評価方法と基準	レポート提出:ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。					

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	他者(クラスメイト)の特徴を理解し、円滑なコミュニケーションをとる事が出来る。	クラスメイトの顔・名前を憶えてくること
2	講義	他者(クラスメイト)の特徴を理解し、円滑なコミュニケーションをとる事が出来る。	クラスメイトの顔・名前を憶えてくること
3	講義	学則読み合わせ。滋慶学園の理念を理解し、実践することが出来る。	学生便覧P20~P45の内容を確認する
4	講義	学則読み合わせ。滋慶学園の理念を理解し、実践することが出来る。	学生便覧P20~P45の内容を確認する
5	講義	学習ポートフォリオの作成① トレーニング授業の様子を動画で撮影。ポイントを入力。	犬種図鑑のP40~p50ページを読む。
6	講義	学習ポートフォリオの作成② トレーニング授業の様子を動画で撮影。ポイントを入力。	犬種図鑑のP40~p51ページを読む。
7	講義	学習ポートフォリオの作成③ トレーニング授業の様子を動画で撮影。ポイントを入力。	犬種図鑑のP40~p52ページを読む。
8	講義	「EPPS」性格検査から自己理解を深めることができる	事後学習:検査の完成
9	講義	グループワークを効率よく進めるスキルが身につく	事後学習:振り返りノート作成/テキスト4章II-1・2購読
10	講義	コンセンサススキルが身につく	事前学習:テキスト第3章II-2・3・4・5購読
11	講義	自己と他者の理解を深めることができる	事後学習:自己分析の完成/振り返りノート作成
12	講義	人間関係をより円滑にするする方法が身につく	事前学習:テキスト第3章I-3購読 事後学習:授業振り返りノートの作成
13	講義	就活や社会で役立つ文章表現力が身につく	事前学習:作文のテーマ探し~夏休みの振り返り 事後学習:文章を完成させる
14	試験	前期試験	事前学習:筆記のために前期半年間の教材やテキストの復習
15	講義	振り返り	事前学習:履歴書作成のための自分の情報(学歴・資格・免許等の取得年年月日)調べ
準備学習 時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】			

科目名	コミュニケーション・スキルアップⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松井 かおり
学科・コース	エコイノベーション科昼-4年制	授業 形態	演習	(単位)	1		
教員の略歴	フリーの編集者・ライター、現在は主にカウンセラー、研修講師として活動。本年度から若者支援法人代表理事。						
授業の学習 内容	この授業では、コミュニケーションの基本から、社会人としてのコミュニケーションで重要なマインドやスキルを身につけていきます。「クラスの仲間との関係づくり」から「実習先、社会人に向け必要な振る舞い」まで、いろいろなコミュニケーションのトレーニングをしていく授業です。 また、知識としての理解だけでなく、体験ワークを中心にを行い、自ら考え、実践できるレベルを目指していきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と自分自身の違いを知り、お互いを尊重しようとなる。 ・自分自身の特徴を知り、自己表現ができるようになる。 ・コミュニケーションの基本である、「聴く」「伝える」のポイントが実践できる。 ・仕事を円滑にすすめるための指示受けや報連相など、ビジネスコミュニケーションのポイントを理解する。 ・社会人として必要なビジネスマナーを理解し、使えるようになる。 						
評価方法と基準	【評価方法】 1) 定期試験70% 2) 授業態度20% 3) 出席数10% 【評価基準】 1) 定期試験は、各設問について、授業内での実施事項を踏まえ回答する。各設問ごとに点数を設け、合算して算出する。 2) 授業態度は、参加姿勢や提出物の有無、内容を含む。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義、演習	【合意形成】チームで意見交換をし、意見をまとめる体験をする	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
2	10月10日 アクア	講義、演習	【検定講義2】第3章 自己表現スキル	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
	1月9日 補講 野	講義、演習	【自己分析2】ライフライン&モチベーションマップ	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
3	10月17日	講義、演習	【自己分析1】心理テストをもとに自分の特徴を理解する	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
4	10月24日 アクア	講義、演習	【自己分析2】ライフライン&モチベーションマップ	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
	11月14日 野生	講義、演習	【検定講義2】第3章 自己表現スキル	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
5	10月31日	講義、演習	【自己分析3】リフレーミングで自分の特徴の見方を変えてみる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
6	11月7日	講義、演習	【検定講義3】第4章 社会的スキル	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
7	11月21日	講義、演習	【ビジネスマナー】敬語や丁寧な言葉遣いを学ぶ	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
8	11月28日	講義、演習	【検定講義4】第5章 サービスマインド	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
9	12月5日	講義、演習	【自己分析4】履歴書や面接に生かせる自己PRを作成する	自己PR完成
10	12月12日	講義、演習	【セルフコントロール1】アンガーマネジメント	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
11	12月19日	講義、演習	【セルフコントロール2】ストレスマネジメント	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
12	1月16日	講義、演習	【目的意識】仕事に必要な目的意識を養う	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
13	1月23日	演習	【クラスワーク】クラス全員と交流し、仲間の肯定的イメージを伝えることで、自己理解・他者理解を深める	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
14	1月30日	試験	【後期試験】後期に学んだことを整理し、自分を振り返り、達成や課題を分析できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する
15		海外研修		
準備学習 時間外学習			毎回の授業終了時に次の授業までに実践計画を立て、実践、次の授業で振り返る	
【使用教科書・教材・参考書】				
教科書「コミュニケーションスキルアップ検定」				

科目名	コミュニケーションスキル I 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	片岡紀予
学科・コース	エコイノベーション科屋一4年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	北里大学卒業後、日油株式会社勤務。放送大学卒業。精神福祉士取得、コミュニケーション、心理学講師						
授業の学習 内容	社会人になるための基本的なコミュニケーション力をつける。今後の研修、就職活動に向けて自己理解を深め、自分の長所や短所の理解を深めておく。研修先で必要なコミュニケーション力をつける。履歴書作成では主に自己分析に基づいた自己PRを作成出来るようにする。水族館やショップなどで活かせる対応力、自分自身をPRできるプレゼンテーション力をつけていく。						
到達目標	前期は自己理解、他者理解を深めることでコミュニケーション力を上げていく。後期研修先に提出する履歴書を作る。後期はCSU検定の合格、履歴書を書く能力を更に上げて自己理解、就職活動に活かせるコミュニケーション力をつけていく。						
評価方法と基準	テスト結果20%、授業態度出席率(授業態度出席率を点数化します。公欠は欠席回数には含みません)80%。再試は試験当日試験を受けなかった学生に対し当日と同じ試験を受けてもらいます。試験日に試験を受けてD評価以下の場合はレポートを出してもらい評価します。公欠だった場合は当日に試験を受けたものとみなし、評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月17日	グループワーク	授業内容説明、自己紹介ワーク	教科書1章を読む
2	4月24日	グループワーク	好きな物マップ。自分を知ってもらう	教科書2章を読む
3	5月8日	1対1ワーク	トランプトーク。聴く話すの基本を学ぶ	教科書2章を読む
4	5月15日	個人、グループワーク	WHO am I。私とは?自己分析	教科書2章を読む
5	5月22日	個人ワーク	エゴグラム、心理テスト。	自己分析のまとめ→履歴書へ
6	5月29日	個人ワーク	履歴書作成	研修先のことを調べる
7	6月5日	個人ワーク	履歴書作成	研修先のことを調べる
8	6月12日	グループワーク	言葉で伝える図形。聴く、話すの基本	教科書2章を読む
9	6月19日	プレゼンテーション	わたしのおすすめグルメ	プレゼンテーションについて調べる
10	6月26日	グループワーク	日常行動テスト。自己分析	自己分析に活かす
11	7月3日	グループワーク	なぞの宝島。コンセンサス	教科書3章を読む
12	7月10日	個人、グループワーク	ストローク。肯定的関り	ストローク復習
13	9月4日	グループワーク	わたしのイメージ	自己分析に活かす
14	9月11日	試験		
15	9月18日	振り返り	試験返却、今後の計画	試験で出来なかったことの復習
準備学習 時間	基本的にはCSU教科書を準備学習とする。			
【使用教科書・教材・参考書】 CSU教科書、配布プリント				

科目名	コンピューターI オフィス1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 (株)ブ レーン スタッ フコン サルタ ンツ
学科・コース	エコ・イノベーション科 4年生	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1	
教員の略歴	滋慶学園グループの一企業である(株)ブレインスタッフコンサルタンツのインストラクターが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについて特化した講義を実施。					
授業の学習 内容	コンピュータネットワーク環境の適切な利用をとおして、各自の専門分野において有益な情報を得たりデータ加工をおこなうスキルを身に着けることができる					
到達目標	コンピュータネットワーク環境をITリテラシーの観点に基づき適切に利用できる 複合文章の作成 (Word)、表計算や表、グラフの作成 (Excel)、効果的なスライドの作成 (PowerPoint) ができる					
評価方法と基準	定期試験では、パソコンを使用した実技試験をおこない、授業で学んだPC操作の定着度を確認する。 評価は通常点(40点)と期末テスト(60点)の合計100点満点でおこない、学則規定に準ずる。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/11	演習	ホームポジションを理解し、タッチタイピングができる	インターネット上のイーラーニングテキストで操作手順を確認し、繰り返しの練習をとおして操作を定着させる
2	4/18	演習	ITを利用する上で、正しい知識やモラルを身につけられる	
3	4/25	演習	eラーニングテキストを使用でき、Officeの共通操作ができる	
4	5/9	演習	文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作成できる	
5	5/16	演習	より情報が伝わる、レベルの高いビジネス文書を作成できる	
6	5/30	演習	画像の透過方法、セクション区切り、ページ罫線が設定できる	
7	6/13	演習	Excelの基本操作が作成できる	
8	6/20	演習	基本的な機能を使用して資料を作成できる	
9	6/27	演習	関数やグラフを駆使したレベルの高い資料を作成できる	
10	7/4	演習	Excelレベル1,2で学習した機能を操作できる	
11	7/11	演習	データベース機能を理解し、活用できる	
12	7/18	演習	差し込み印刷機能を利用して、カードが作成できる	
13	9月5日	演習	試験対策(予定)	
14	9月12日	演習	試験(予定)	
15	9月19日	演習	振り返り(予定)	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生にとって必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。 東京コミュニケーションアート専門学校				

科目名	一般教養・公務員対策講座 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 新谷 卓
学科・コース	エコ・イノベーション科屋一4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1	
教員の略歴						
授業の学習 内容	<p>社会人として必要とされる教養を身につけます。 様々な人々と円滑なコミュニケーションをはかるために必要な教養を身につけます。 就職試験の一般常識テストの対策となるような基本知識を学びます。 * 以上の学習内容はいずれも自分の専門を活かすための前提になるものです。</p>					
到達目標	<p>問題を理解した上で、用語を使うことができる。 様々な分野に関心を持つことができるようになる。 今まで興味のなかった分野を勉強することによって自分の世界を広げていくことができる。 今話題になっていることや社会問題を他人と話すことができるようになる。</p>					
評価方法と基準	<p>定期試験の得点60% 出席点・授業態度・小テスト・課題など40% (合計100点満点) S-F の基準(S100~90、A89~80、B79~70、C69~60、F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみが受験できる。 追試験は一回行い、合格した場合はCの評価とする。</p>					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義概要(全体像)	一般教養の意味を理解することができる。	ここ数日間の新聞に目を通しておく。
2		講義・演習	政治の時事問題を理解することができる。	教科書「政治」分野のキーワードを読んでおく。
3		講義・演習	政治の時事問題を理解することができる。	教科書「政治」分野のキーワードを読んでおく。
4		講義・演習	経済の時事問題を理解することができる。	教科書「経済」分野のキーワードを読んでおく。
5		講義・演習	経済の時事問題を理解することができる。	教科書「経済」分野のキーワードを読んでおく。
6		講義・演習	国際社会の時事問題を理解することができる。	教科書「国際」分野のキーワードを読んでおく。
7		講義・演習	国際社会の時事問題を理解することができる。	教科書「国際」分野のキーワードを読んでおく。
8		講義・演習	社会の時事問題を理解することができる。	教科書「社会」分野のキーワードを読んでおく。
9		講義・演習	社会の時事問題を理解することができる。	教科書「社会」分野のキーワードを読んでおく。
10		講義・演習	環境・科学の時事問題を理解することができる。	教科書「環境・科学」分野のキーワードを読んでおく。
11		講義・演習	環境・科学の時事問題を理解することができる。	教科書「環境・科学」分野のキーワードを読んでおく。
12		講義・演習	スポーツ・文化の時事問題を理解することができる。	教科書「スポーツ・文化」分野のキーワードを読んでおく。
13		講義・演習	試験前の復習	全過程の復習
14		前期試験	試験	
15		振り返り	試験解答の確認	全過程の復習と振り返り
準備学習 時間外学習			事前に講義で行う教科書の該当箇所を読む。授業に関係するテレビのドキュメンタリー番組を視聴する。	
【使用教科書・教材・参考書】			<ul style="list-style-type: none"> ・新聞 ・『超速マスター！一般常識&時事問題』(高橋書店)21年度版 	

科目名	一般教養・公務員対策講座Ⅰ2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	新谷 卓
学科・コース	エコ・イノベーション科昼—4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴							
授業の学習 内容	<p>社会人として必要とされる教養を身につけます。 様々な人々と円滑なコミュニケーションをはかるために必要な教養を身につけます。 就職試験の一般常識テストの対策となるような基本知識を学びます。 *以上の学習内容はいずれも自分の専門を活かすための前提になるものです。</p>						
到達目標	<p>問題を理解した上で、用語を使うことができる。 様々な分野に関心を持つことができるようになる。 今まで興味のなかった分野を勉強することによって自分の世界を広げていくことができる。 今話題になっていることや社会問題を他人と話すことができるようになる。</p>						
評価方法と基準	<p>定期試験の得点60% 出席点・授業態度・小テスト・課題など40% (合計100点満点) S-Fの基準(S100~90、A89~80、B79~70、C69~60、F59~0) 再試験は欠点が認められた者のみが受験できる。 追試験は一回行い、合格した場合はCの評価とする。</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	政治・経済の仕組みを理解することができる。	与えられた課題を行う。
2		講義・演習	国際・社会問題を理解することができる。	与えられた課題を行う。
3		講義・演習	歴史の流れを理解することができる。	与えられた課題を行う。
4		講義・演習	地理・思想を理解することができる。	与えられた課題を行う。
5		講義・演習	漢字・熟語・四字熟語・敬語などを習得する。	与えられた問題を解く。
6		講義・演習	国語の長文を読解することができる。	与えられた問題を解く。
7		講義・演習	基礎的な英文法を理解することができる。	与えられた問題を解く。
8		講義・演習	基礎的な英文を解釈することができる。	与えられた問題を解く。
9		講義・演習	基礎的な式の計算・方程式・順列などの問題が解ける。	与えられた問題を解く。
10		講義・演習	グラフや図形の問題を解くことができる。	与えられた問題を解く。
11		講義・演習	物理・化学の基礎問題を解くことができる。	与えられた問題を解く。
12		講義・演習	生物・地学の基礎問題を解くことができる。	与えられた問題を解く。
13		講義・演習	スポーツ・文化の基礎的な出来事を知る。	与えられた問題を解く。
14		前期試験	試験	
15		振り返り	試験解答の確認	全過程の復習と振り返り
準備学習 時間外学習		事前に講義で行う教科書の該当箇所を読む。授業に関係するテレビのドキュメンタリー番組を視聴する。		
【使用教科書・教材・参考書】		<ul style="list-style-type: none"> ・新聞 ・『超速マスター！一般常識&時事問題』(高橋書店)21年度版 		

科目名	英会話	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	エコ・コミュニケーション科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	滋慶学園の英語教育に長期にわたって従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥がたりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	L1 挨拶が出来るようになる アセスメントテスト	オンラインプラクティス L 1
2		講義	L2 L3 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	オンラインプラクティス L2 L3
3		講義	L6 好き嫌いを表現出来るようになる 相手に質問で返すことができるようになる	オンラインプラクティス L6
4		講義	L8 相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることができるようになる 誘いに返答することが出来るようになる	オンラインプラクティス L8
5		講義	L9 L10 相手の家族について質問出来るようになる 自身の家族について説明出来るようになる 相手の性格と比較して説明出来るようになる	オンラインプラクティス L9 L10
6		講義	L11 相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に返答出来るようになる	オンラインプラクティス L11
7		講義	L7 L13 時間を尋ねることが出来るようになる 時間を伝えることが出来るようになる 相手の日課について質問が出来るようになる	オンラインプラクティス L7 L13
8		講義	L14 継続して質問することが出来るようになる	オンラインプラクティス L14
9		講義	L19 L20 ある場所の位置について質問出来るようになる ある場所の位置を説明出来るようになる 道案内が出来る、道順を尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L19 L20
10		講義	L23 ある行動の頻度について尋ねることが出来るようになる ある行動の頻度を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L23
11		講義	L28 ある食べ物について質問出来るようになる ある食べ物を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L28
12		講義	L29 L30 過去の出来事について話すことが出来るようになる 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L29 L30
13		講義	L32 予定について質問出来るようになる 予定について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L32
14		定期試験	定期試験 アセスメントテスト	
15		振返り	振返り	
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Speak Now 1				

科目名	英会話 I 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	エコ・イノベーション科 4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	滋慶学園の英語教育に長期にわたって従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	L1 L2 挨拶が出来るようになる アセスメントテスト	オンラインプラクティス L1 L2
2		講義	L3 L4 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	オンラインプラクティス L3 L4
3		講義	L5 好き嫌いを表現出来るようになる	オンラインプラクティス L5
4		講義	L6 相手の好きなものについて質問が出来るようになる 相手に質問で返すことが出来るようになる	オンラインプラクティス L6
5		講義	L7 時間を尋ねることが出来るようになる 時間を伝えることが出来るようになる	オンラインプラクティス L7
6		講義	L8 相手の意見を聞くことが出来るようになる 自分の意見を言うことが出来るようになる	オンラインプラクティス L8
7		講義	L9 L10 相手の家族について質問出来るようになる 自身の家族について説明出来るようになる 相手の性格と比較して説明出来るようになる	オンラインプラクティス L9 L10
8		講義	L11 L12 相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に返答出来るようになる 相手の服装について尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L11 L12
9		講義	L13 相手の日課について質問が出来るようになる 自分の日課について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L13
10		講義	L14 継続して質問することが出来るようになる	オンラインプラクティス L14
11		講義	L15 あるものの順番について質問が出来るようになる あるものの順番について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L15
12		講義	L16 学校外での活動について質問出来るようになる 学校外での活動について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L16
13		講義	L17 ある場所について質問出来るようになる ある場所について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L17
14		定期試験	定期試験	
15		振り返り	振り返り	
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Speak Now 1				

科目名	英会話 I 2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
学科・コース	エコ・イノベーション科 4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	滋慶学園の英語教育に長期にわたって従事。Active Learningに取り組みコミュニケーション主体の授業を実施。						
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	英語で挨拶したり、自分の言いたいことを伝え、相手の言っていることを理解するなど、日常の場面で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	L18 相手に提案を求めることが出来るようになる 相手に提案をすることが出来るようになる	オンラインプラクティス L18
2		講義	L19 L20 ある場所の位置について質問出来るようになる ある場所の位置を説明出来るようになる 道案内が出来る、道順を尋ねることが出来るようになる	オンラインプラクティス L19 L20
3		講義	L21 あるものの値段について尋ねることが出来るようになる あるものの値段を教えることが出来るようになる	オンラインプラクティス L21
4		講義	L23 ある行動の頻度について尋ねることが出来るようになる ある行動の頻度を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L23
5		講義	L25 あるものの量について質問出来るようになる あるものの量について話すことが出来るようになる	オンラインプラクティス L25
6		講義	L26 相手の必要なものを尋ねることが出来るようになる 必要なものを説明出来るようになる	オンラインプラクティス L26
7		講義	L27 食生活について説明出来るようになる 健康的な食事について話すことが出来るようになる	オンラインプラクティス L27
8		講義	L28 ある食べ物について質問出来るようになる ある食べ物を説明出来るようになる	オンラインプラクティス L28
9		講義	L29 過去の出来事について話すことが出来るようになる 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる1	オンラインプラクティス L29
10		講義	L30 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる2	オンラインプラクティス L30
11		講義	L31 ある出来事を説明出来るようになる 出来事を聞いて反応出来るようになる 過去の体験について話したり尋ねたりすることが出来るようになる	オンラインプラクティス L31
12		講義	L32 予定について質問出来るようになる 予定について説明出来るようになる	オンラインプラクティス L32
13		講義	復習	
14		定期試験	定期試験 アセスメントテスト	
15		振返り	振返り	
準備学習 時間外学習			自宅で教科書に付随するオンラインプラクティスの内容を活用し、予習・復習を行うこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Speak Now 1				

科目名	次世代の為の環境教育 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤直邦
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	ケニア政府公認プロサファリガイド						
授業の学習 内容	地球のしくみや、人間の歴史を通じて環境問題を考え、次世代型環境教育ビジネスに活かせる知識や技術を習得する。						
到達目標	地球環境や自然保護についての基礎を理解し、知識を身につける。 グローバル社会に対応するための、生態学を通じた英語を身につける。						
評価方法と基準	1) 定期試験60% 2) プレゼンテーション20% 3) 出席率20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	何故環境問題を学ぶのか知る	エコ検定試験について調べる
2		講義	環境問題の歴史を知る	エコ検定過去問題集で復習
3		講義	身近な自然について考える1	身近な自然を自分で探してみる
4		講義	宇宙のしくみと地球の歴史を知る	エコ検定過去問題集で復習
5		講義	大気にまつわる環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
6		講義	大気にまつわる環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
7		講義	海洋のしくみと環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
8		講義	ケニア研修ガイダンス	海外研修の必要性を考える
9		講義	水循環と環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
10		講義	土壌と森林について学ぶ1	エコ検定過去問題集で復習
11		講義	土壌と森林について学ぶ2	エコ検定過去問題集で復習
12		講義	身近な自然について考える2	プロジェクトワイルドを学ぶ
13		講義	中間テスト前のおさらい	エコ検定過去問題集で復習
14		試験	中間テスト	試験範囲の予習と対策
15		講義	振り返り	不正解問題の訂正
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す		
【使用教科書・教材・参考書】 エコ検定公式テキスト				

科目名	次世代の為の環境教育 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤直邦
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	ケニア政府公認プロサファリガイド						
授業の学習 内容	地球のしくみや、人間の歴史を通じて環境問題を考え、次世代型環境教育ビジネスに活かせる知識や技術を習得する。						
到達目標	地球環境や自然保護についての基礎を理解し、知識を身につける。 グローバル社会に対応するための、生態学を通じた英語を身につける。						
評価方法と基準	1) 定期試験60% 2) プレゼンテーション20% 3) 出席率20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	何故環境問題を学ぶのか知る	エコ検定試験について調べる
2		講義	環境問題の歴史を知る	エコ検定過去問題集で復習
3		講義	身近な自然について考える1	身近な自然を自分で探してみる
4		講義	宇宙のしくみと地球の歴史を知る	エコ検定過去問題集で復習
5		講義	大気にまつわる環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
6		講義	大気にまつわる環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
7		講義	海洋のしくみと環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
8		講義	ケニア研修ガイダンス	海外研修の必要性を考える
9		講義	水循環と環境問題を学ぶ	エコ検定過去問題集で復習
10		講義	土壌と森林について学ぶ1	エコ検定過去問題集で復習
11		講義	土壌と森林について学ぶ2	エコ検定過去問題集で復習
12		講義	身近な自然について考える2	プロジェクトワイルドを学ぶ
13		講義	中間テスト前のおさらい	エコ検定過去問題集で復習
14		試験	中間テスト	試験範囲の予習と対策
15		講義	振り返り	不正解問題の訂正
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す		
【使用教科書・教材・参考書】 エコ検定公式テキスト				

科目名	化石復元テクニック CG基礎1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西山 桂太郎
学科・コース	エコ・イノベーション科 昼ー4年制	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	広告代理店退社後フリーランス イラストレーター デザイン						
授業の学習 内容	イラストレーションの楽しさを学ぶ 一般紙におけるカットの書き方、また様々な手法を学ぶ。 画材の使用方法を学ぶ オリジナルの表現方法の発見 偶然性の面白さの模索						
到達目標	産業施設・働く場におけるイラストレーションの活用 実際のケースを想定していたトレーニングを行い現場で活用できる技術の習得 生きていく中での余暇の過ごし方・選択肢としてのデザイン						
評価方法と基準	提出物・制作物 評価						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		実習・講義	クロッキー 鉛筆で線を描く				
2		実習・講義	クロッキー 3分 石と面 強弱 球体	洋服のしわの描き方 パンフレット・街中のフライヤーのデザインに触れる			
3		実習・講義	クロッキー 3分 静物画	キクロッキー2分「練習」			
4		実習・講義	クロッキー3分 貝とデッサン デティールを追う・模様報告	キクロッキー2分「練習」			
5		実習・講義	アクリル絵の具の着彩 葉・葉脈	キクロッキー5分「練習」			
6		実習・講義	クロッキー5分 ボールペン画	ボールペン・鉛筆によるクロッキー・ ファッション雑誌のトレース			
7		実習・講義	モチーフと部分的なデッサン 剥製	ボールペン・鉛筆によるクロッキー・できれば街で歩く人物画			
8		実習・講義	モチーフと部分的なデッサン 剥製	パンフレット・街中のフライヤーのデザインに触れる また、気に入ったデザインを集める習慣を身に付ける			
9		実習・講義	モチーフと部分的なデッサン 剥製	人間の顔・素描10分(ネットで検索した老人の画像を使用) ボールペン			
10		実習・講義	ナビゲーターとキャラクター	キャラクターデザインのモチーフになるデザインの情報収集			
11		実習・講義	モチーフと部分的なデッサン 野菜 ビーマン「カットしたもの」	酸漿・しいたけ・唐辛子・デティールを追いかける			
12		実習・講義	モチーフと部分的なデッサン 煮干し・アクリルにて着彩	乾物って?種類を知る			
13		実習・講義	平筆とデッサン 素描 墨汁を使用しデザインする。	クロッキー5分「練習」 マーメイド紙			
14		実習・講義	ボタニカルとデザイン	植物を使用したパッケージを探し どんな商品が多くあるのかりサーチ			
15		実習・講義	14週行った授業のおさらいと、振り返り				
準備学習 時間外学習				動物観察・スケッチ			
【使用教科書・教材・参考書】							
基本の動物デッサン							

科目名	生物復元テクニック CG基礎2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西山 桂太郎
学科・コース	エコ・イノベーション科 昼ー4年制	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	広告代理店退社後フリーランス イラストレーター デザイン						
授業の学習 内容	画材の使用方法を学ぶ オリジナルの表現方法の発見 偶然性の面白さの模索 立体造形の楽しさを学ぶ						
到達目標	産業施設・働く場におけるイラストレーションの活用 実際のケースを想定していたトレーニングを行い現場で活用できる技術の習得 立体を平面に置き換え、表現できる。 3DCGを駆使し、生物の映像的復元の為のセンスを養う						
評価方法と基準	提出物・制作物 評価						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		実習・講義	立体物スケッチ1 頭骨標本 素描による 立体表現の平面的制作		素材となる骨格の選定と観察
2		実習・講義	立体物スケッチ2 頭骨標本 素描による 立体表現の平面的制作		素材となる骨格の選定と観察
3		実習・講義	立体物作成1 フォーム 曲線美		素材とするモデルの選定と観察
4		実習・講義	立体物作成2 ポリウム 線と回転		素材とするモデルの選定と観察
5		実習・講義	立体物作成3 空間 面		素材とするモデルの選定と観察
6		実習・講義	立体物作成1 クレイモデル自由課題作成		粘土で作る生き物の造形から自主制作
7		実習・講義	立体物作成2 クレイモデル自由課題作成		粘土で作る生き物の造形から自主制作
8		実習・講義	立体物作成3 クレイモデル自由課題作成		粘土で作る生き物の造形から自主制作
9		実習・講義	制作実技 頭部の構造を理解する		基本の動物デッサンの熟読
10		実習・講義	制作実技 目、鼻、口の位置とバランス		基本の動物デッサンの熟読
11		実習・講義	制作実技、前肢、後肢の位置とバランス		基本の動物デッサンの熟読
12		実習・講義	制作実技、筋肉と骨格の表現		自主制作
13		実習・講義	制作実技、静止と躍動		自主制作
14		実習・講義	制作実技、表情と表面構造		自主制作
15		実習・講義	作品プレゼンテーション・評価		プレゼン準備と評価
準備学習 時間外学習			動物観察・スケッチ・主体的な自主制作		
【使用教科書・教材・参考書】					
基本の動物デッサン・粘土で作る生き物の造形					

科目名	動物の健康管理 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	本村伸子
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴							
授業の学習 内容	近年、ペット業界においても「食育」という言葉が注目されてきている。市販のペットフードの商品の幅も広がってきていて、専門的な知識が求められる時代になってきている。犬たちの健康を考える上でも、個々の犬たちに合ったフードを選ぶ目を養ってほしいです。さらに、市販のペットフードだけに頼るのではなく、手作り食についてもオーナーに対して指導が出来るようになって欲しい。						
到達目標	市場で販売されているペットフードを適正に見極めて、良いフードを選べるようになる。犬のオーナーに対して食事の指導が出来るようになる。体調の変化やライフステージに応じた食事を検討して、提案できるようになる。						
評価方法と基準	定期試験100% 筆記試験						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	食事の大切さを学び、自分の生活を見直すことが出来る	学生自身の普段の生活と食事について考える
2		講義	ペットフードの選び方①:学校犬が食べているドッグフードの内容を判断できる	
3		講義	ペットフードの選び方②:ペットフードのメリットを理解する	ペットショップに行って、どのようなフードが売られているかを調査する
4		講義	ペットフードの選び方③:ペットフードのデメリットを理解する	
5		講義	ペットフードの選び方④:ペットフードのデメリットを理解する	担当している犬たちの食事を調査
6		講義	ペットフードの選び方⑤:酸化防止剤の意味を理解する	
7		講義	ペットフードの選び方⑥:様々な添加物について理解する	
8		講義	ペットフードの選び方⑦:原材料の問題点を考える	担当している犬たちの食事の問題点を考える
9		講義	ペットフードの選び方⑧:手作り食との併用を理解する	
10		講義	手作りご飯の基本①:骨や肉を生で与える場合の注意点を理解する	
11		講義	手作りご飯の基本②:穀類を与える場合の注意点を理解する	
12		講義	手作りご飯の基本③:動物性食品の特徴を理解する	
13		講義	手作りご飯の基本④:動物性食品の特徴を理解する	試験範囲内容をきちんとまとめる
14		試験	筆記試験	
15		講義	テスト結果の振り返り	試験の結果を振り返り間違った箇所を復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】「もう迷わないペットの健康ごはん」				

科目名	動物の健康管理 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	黒葛原 真実
学科・コース	エコ・イノベーション科 昼—4年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	ドルフィントレーナーとしてふれあい施設に勤務し、現在はダイビングショップ・潜水作業を行う会社を運営している。						
授業の学習 内容	①水族館等で扱われている海洋哺乳類について知り、その生態や特徴、飼育管理に必要な事を学び理解することができる。 ②水族館、ふれあい施設をはじめその他マリン業界や動物園業界等様々な方向性の中でどのように自分に関わりたいのか、その上では何が必要なのかを見極め、考えていくことができる。 ③授業手法は主に「講義」「筆記」「映像鑑賞」「オリエンテーション」で展開。						
到達目標	①水族館やふれあい施設等において動物の飼育・管理に関わる上で、扱われている海洋哺乳類の基礎的な生態、健康管理に必要な知識を中心に身につけ実践に役立てることができる。 ②水族館・マリン業界を始め、海に関わる仕事内容を知り理解することができる。 ③座学や業界実習を重ね、二年時に上がる上である程度の方向性を確立できる。 ④『人前で話す力、人に伝える力などのコミュニケーション力』を身につける。						
評価方法と基準	定期試験 60% 出席率 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の概要・目的説明・目標設定・自己紹介	/最も印象に残った自己紹介
2		講義	海洋哺乳類に関わる仕事を考える・知る	どんな仕事があるかノートに書く/最も興味を持った仕事について調べる(業務内容、年収、なるために必要なこと、資格等)
3		演習	伊豆実習	ホイッスル練習/レポート
4		講義	海の哺乳類 I (鯨類)について理解できる	好きな鯨類一種をイラストで描く/ミニテスト
5		演習	スキンドайビングの習得ができる	目標設定/振り返り
6		講義	海の哺乳類 II (鰐脚類)について理解できる	好きな鰐脚類一種をイラストで描く/ミニテスト
7		講義	海の哺乳類 III (海牛類)について理解できる	好きな海牛類一種をイラストで描く/ミニテスト
8		講義	海の哺乳類 IV (その他の海洋哺乳類)について理解できる	日本の水族館で飼育されているその他の海洋哺乳類を調べ書く/ミニテスト
9		講義	海の鳥類について理解できる	好きなペンギン一種をイラストで描く/ミニテスト
10		講義	餌料について理解できる①	サバ・アジ・サンマ・ホッケ・シシャモを見分ける /上記の魚一種以上を食す、できれば丸魚を見る、触る
11		講義	餌料について理解できる②	前回の課題の感想・まとめ/ミニテスト
12		講義	初期飼育について理解できる①	水族館に来るまでの経緯を調べる/まとめ
13		講義	初期飼育について理解できる②	イルカの輸送方法を調べる/まとめ
14		試験		試験範囲の学習/まとめ
15		講義		分からなかったところの復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	動物飼育演習I	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江口仁 詞
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	日本動物植物専門学校獣医看護科卒、OMファーム岩村、犬猫ハウスパピー、A&Fカントリー勤務、NCA教務部、TCA教務部						
授業の学習 内容	<p>観賞魚の基本的な飼養管理は、飼育展示・販売、又は接客に必要な不可欠な授業です。 また、淡水魚研究、海水魚研究の授業で魚種別の生息環境を学び、人工飼育を可能にする為の知識・技術です。 より多くの水生生物を長く健康に飼育し、適正に安全に流通させることができるプロとなれるよう、学習してください。 授業は座学が中心ですが、実験を通じて水質の違いや、機材の正しい使用方法を学習します。</p> <p>※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。</p>						
到達目標	<p>淡水の水質を調整し、地域によって異なる環境を作ることができる。 4大観賞魚産地の、代表的な水質を理解する。 その水質を、水道水を元に作るようになる。 海水魚の基本となる人工海水を正しく作ることができる。 窒素還元の循環システムを組み立てることができる。</p>						
評価方法と基準	<p>小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。</p>						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。	入学前オリエンテーションにおける3つの週間の理解と個人目標の策定
2	講義	飼育マニュアルの説明から、飼育方法だけではなく、展示の目的、目標、方法を理解することができる。	準備学習：入学前オリエンテーションにおける個人目標の策定から、校内での飼育の目的、目標の共通点を確認する。
3	講義・演習	魚の正しい扱い方を学び、水槽内での捕獲～酸素を使い安全に輸送できる技術を身に付ける。	熱帯魚3200種図鑑を使用しアクアariumの魚種の比較と同定を行う。50～100種
4	講義・演習	観賞魚の生息地域の特性から、魚種の特徴を理解する。南米アマゾン流域・東南アジアオセアニア・アフリカ	
5	講義・演習	観賞魚の飼育水を作れるようになる為に、実験を行い水道水と飼育水の違いを理解する。	飼育マニュアルの熟読と実践をアクアariumの飼育当番・補助の作業内で行い、時間外学習に充当する。
6	講義・演習	観賞魚の飼育水を管理する為に、実験を通じより効率よく換水を行えるようになる(サイフォン)	
7	講義・演習	観賞魚の飼育管理を行う為に、実験を通じてPHによる水質の違いを理解する。	
8	講義	海水魚の飼育管理を行う為に、塩分濃度を理化して人工海水から飼育水を作ることができる。	
9	講義	観賞魚の飼育管理を行う為に、硝化作用とPHの関係を理解し、実践できるようになる。	
10	講義	観賞魚の飼育管理を行う為に、水質を変化させる要因を理解し、PHをコントロールできるようになる。	観賞魚飼育・管理士ハンドブック8p～15pの熟読と理解
11	講義	安定した水質維持の為に、水槽内の窒素の循環サイクルを理解できるようになる。硝化と窒素還元	指定したロープワークの実践と、夏季休暇中の採取実践を行う。
12	講義・演習	魚類の行動の観察方法 野生の魚を捕獲する漁法を知り、ミャク釣りの仕掛けを作る。	
13	講義	NH3/NO2/NO3の測定方法、比重の計り方を理化し、水質測定が行えるようになる。	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
14	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、水質と飼育管理の理解を深める	試験範囲からの復習と飼育マニュアルの熟読
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	
【使用教科書・教材・参考書】 熱帯魚3200種図鑑/鑑賞魚飼育・管理士ハンドブック/鑑賞魚飼育・管理士ハンドブックⅡ			
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。			

科目名	動物飼育演習I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江口仁 詞
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	日本動物植物専門学校獣医看護科卒、OMファーム岩村、犬猫ハウスパピー、A&Fカントリー勤務、NCA教務部、TCA教務部						
授業の学習 内容	<p>観賞魚の基本的な飼養管理は、飼育展示・販売、又は接客に必要な不可欠な授業です。 また、淡水魚研究、海水魚研究の授業で魚種別の生息環境を学び、人工飼育を可能にする為の知識・技術です。 より多くの水生生物を長く健康に飼育し、適正に安全に流通させることができるプロになれるよう、学習してください。 授業は座学が中心ですが、実験を通じて水質の違いや、機材の正しい使用方法を学習します。</p> <p>※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。</p>						
到達目標	<p>窒素還元の循環システムを組み立てることができる。 代表的な魚病の特徴と発生理由を理解することができる。 代表的な魚病に使う薬品を知り、正しくしようできるようになる。 基本的な機材の管理を身につけ、2019年10月～2020年9月までの飼育管理の中で起るトラブルに対応が出来るようになる。</p>						
評価方法と基準	<p>小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。</p>						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	安定した水質維持の為に、自然界における窒素の循環サイクルを理解できるようになる。硝化と窒素還元	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
2	講義・演習	水槽内でのトラブルの対応（魚病）濃度の単位%、‰、ppmを学び、基本的な薬品の希釈と投薬ができるようになる	観賞魚飼育・管理士ハンドブック31p～56pの熟読と理解。
3	講義	水槽内でのトラブルの対応（魚病）白点病／ウーディニウム病の予防と治療を説明できる	
4	講義	水槽内でのトラブルの対応（魚病）ミズカビ・細菌感染の予防と治療を説明できる。	
5	講義	両生類の飼育管理 魚類の飼育管理技術を活かし代表的な有尾目・無尾目の飼育に応用ができる。	爬虫類室の飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
6	講義	両生類の飼育管理 魚類の飼育管理技術を活かし代表的なカメ目、有鱗目の飼育に応用ができる。	
7	講義	観賞魚・両生爬虫類の生き餌の飼育管理を正しく行い、安全に保管できる方法を実践できる。	観賞魚飼育・管理士ハンドブック43p～49pの熟読と理解。
8	講義	野菜・冷凍餌・配合飼料の管理と基本的な保管方法と調餌方法、衛生管理が行えるようになる。	オーストラリアへの海外研修を持って充当する。
9	講義・演習	オーストラリア・オセアニア地域の魚類・両生爬虫類を学び、飼育管理に生かすことができる。	
10	講義	ガラス水槽とアクリル水槽の特徴と違いを学び、展示する生体によるトラブルを防ぐ。	理解と提出レポートの作成
11	講義	ガラスとアクリルの基本的な管理・加工を学び、展示する生体によるトラブルを防ぐ。	
12	講義	塩パイプによる配管の方法と加工を学び、飼育管理に活用することができる。	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
13	講義	エアーポンプとフロアーのメンテナンスを学び、飼育管理に活用することができる。	
14	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、水質と飼育管理の理解を深める	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	
【使用教科書・教材・参考書】			
鑑賞魚飼育・管理士ハンドブック／鑑賞魚飼育・管理士ハンドブックⅡ ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可す			
東京コミュニケーションアート専門学校			

科目名	両生類・爬虫類研究 I	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	富田京一
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 Ⅱ 2年	授業 形態	講義・演 習	単位	1		
教員の略歴	恐竜や爬虫類研究の第一人者。多くの著書があり、映像作品や各地の博覧会にも多数協力している。						
授業の学習 内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひとつおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	爬虫両生類の定義と特徴を理解できる。	授業の内容について復習(レポート)
2		講義	飼育の基本(ケージ・保温・床材等)を理解できる。カメ総論と水生種の分類・飼育	授業初め、前回の内容について議論
3		講義	カメ類総論と水生種の分類・生態・飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
4		講義	陸生ガメとハコガメの分類・生態・飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
5		講義	ウミガメの分類・生態・飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
6		講義	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
7		講義	爬虫両生類の野外観察法(装備等)を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
8		講義	トカゲ類総論と地上生種の分類～飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
9		講義	イグアナ等樹上生種の分類・生態・飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
10		講義	カメレオン・ヤモリ類の分類・生態・飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
11		講義	オオトカゲ類の分類・生態・飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
12		講義	水生・地中生トカゲの分類・生態・飼育を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
13		講義	これまで習得した知識や技術の確認を理解できる。	授業初め、前回の内容について議論
14		試験		
15		講義	後期の学習内容に進むためのまとめ	後期に向けた予習(レポート)の指示
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。				
夏休みに向けてのレポート提出				

科目名	動物飼育実習 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	富田京一
学科・コース	エコ・イノベーション科昼-4年制	授業 形態	講義・演習	単位	1		
教員の略歴	恐竜や爬虫類研究の第一人者。多くの著書があり、映像作品や各地の博覧会にも多数協力している。						
授業の学習 内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひとつおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	爬虫両生類とは何か復習し理解を深める。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
2		講義・演習	水生ガメの高度な飼育法や保全を学び理解できる。カメ総論と水生種の種類・飼育	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
3		講義・演習	陸生ガメの高度な飼育法や保全を学び理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
4		講義・演習	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
5		講義・演習	ウミガメの高度な飼育法と個体数保全を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
6		講義・演習	爬虫両生類の野外観察法(装備等)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
7		講義・演習	トカゲ(地上生を中心に)の社会行動を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
8		講義・演習	樹上生トカゲの骨形成と温度・給水法を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
9		講義・演習	大型トカゲ・有毒トカゲの安全な飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
10		講義・演習	爬虫両生類の主な病気と予防・対策を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
11		講義・演習	爬虫両生類と公衆衛生上の対策を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
12		講義・演習	爬虫両生類の進化①(形態と解剖学)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
13		講義・演習	これまで習得した知識や技術の確認を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
14		講義・演習	筆記試験実施	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
15		講義・演習	後期の学習内容に進むためのまとめ	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。					

科目名	動物飼育実習 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	富田京 一
学科・コース	エコ・イノベーション科昼一4年制	授業 形態	講義・演 習	単位	1		
教員の略歴	恐竜や爬虫類研究の第一人者。多くの著書があり、映像作品や各地の博覧会にも多数協力している。						
授業の学習 内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひとつおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	爬虫両生類の定義と特徴を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
2		講義	飼育の基本(ケージ・保温・床材等)を理解できる。カメ総論と水生種の分類・飼育	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
3		講義	カメ類総論と水生種の分類・生態・飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
4		講義	陸生ガメとハコガメの分類・生態・飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
5		講義	ウミガメの分類・生態・飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
6		講義	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
7		講義	爬虫両生類の野外観察法(装備等)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
8		講義	トカゲ類総論と地上生種の分類～飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
9		講義	イグアナ等樹上生種の分類・生態・飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
10		講義	カメレオン・ヤモリ類の分類・生態・飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
11		講義	オオトカゲ類の分類・生態・飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
12		講義	水生・地中生トカゲの分類・生態・飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
13		講義	これまで習得した知識や技術の確認を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
14		試験		アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
15		講義	後期の学習内容に進むためのまとめ	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。				
夏休みに向けてのレポート提出				

科目名	両生類・爬虫類研究Ⅱ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	富田京一
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅱ 2年	授業 形態	講義・演習	単位	1		
教員の略歴	恐竜や爬虫類研究の第一人者。多くの著書があり、映像作品や各地の博覧会にも多数協力している。						
授業の学習 内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひとつおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	爬虫両生類とは何か復習し理解を深める。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
2		講義・演習	水生ガメの高度な飼育法や保全を学び理解できる。カメ総論と水生種の種類・飼育	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
3		講義・演習	陸生ガメの高度な飼育法や保全を学び理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
4		講義・演習	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
5		講義・演習	ウミガメの高度な飼育法と個体数保全を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
6		講義・演習	爬虫両生類の野外観察法(装備等)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
7		講義・演習	トカゲ(地上生を中心に)の社会行動を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
8		講義・演習	樹上生トカゲの骨形成と温度・給水法を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
9		講義・演習	大型トカゲ・有毒トカゲの安全な飼育を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
10		講義・演習	爬虫両生類の主な病気と予防・対策を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
11		講義・演習	爬虫両生類と公衆衛生上の対策を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
12		講義・演習	爬虫両生類の進化①(形態と解剖学)を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
13		講義・演習	これまで習得した知識や技術の確認を理解できる。	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
14		講義・演習	筆記試験実施	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
15		講義・演習	後期の学習内容に進むためのまとめ	アクアルームでの飼育管理にて充当(朝夕90分以上)	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。					